

東日本大震災から10年

その時、障がい者は…

星に語りて

Starry Sky

上映会



映像で振り返る「紀伊半島大水害」

映画「星に語りて」Starry Sky」と

東日本大震災と紀伊半島大水害から10年、

参加費
無料

日 時 2021年10月24日(日) 13:00 ~ 16:00 (受付12:30 ~)

場 所 アスト津 アストホール(津市羽所町700)

募集人員 90人(事前のお申し込みが必要です)

*参加のお申し込みはインターネットで受け付けます。募集人員を超えた段階で受付を終了させていただきます。

【申込フォーム】<https://form.os7.biz/f/1305ffa0/>



共催/三重県生活協同組合連合会、きょうされん三重支部 後援/三重県、三重県社会福祉協議会

お問い合わせ先 三重県生活協同組合連合会 TEL.059-228-9913 / FAX.059-228-9915 メール toiawase@miekenren.jp

開催内容

映像で振り返る
「紀伊半島大水害」

※ 台風12号がもたらした被害の実相や、自然災害に対する県民・地域・行政が行う防災・減災の活動や適切な避難等について学びます。

映画
「星に語りて
～ Starry Sky ～」

※ 第37回(2019年度)日本映画復興奨励賞 受賞作品

※ 『JAPAN CONNECTS HOLLYWOOD 2020』
“BEST PICTURE”(最優秀作品賞) 受賞作品

舞台の一つは、岩手県陸前高田市。高台にある共同作業所「あおぎり」では、津波の直接的な被害は免れたものの、仲間の一人を失って落胆する利用者たちを女性所長が励ましなが、一日も早く障害のある人が日常を取り戻せるように一歩を踏み出そうとしていた。また全国障害者ネットワークでは、東京、秋田、岩手、福岡など全国のグループが連携して支援活動を始めようとしていた。そんな矢先、「障害者が消えた」という情報が入ってきた。多くの避難所をまわっても、障害のある人の姿がほとんど見当たらないというのだ。

一方、福島第一原子力発電所事故によって避難を余儀なくされた地域の一つ、南相馬市では、避難できずに取り残されている障害のある人の存在を知った共同作業所「クロスロードハウス」の代表らが、自らの手で調査に踏み切ろうとしていた。しかし、各地の障害のある人の安否確認を進める中で、彼らに立ちはだかる障壁があった。

それは、個人情報保護法によって開示されない、障害のある人の情報だった。法律によって守られる人権と、一刻を争う人命救助との狭間で苦しむ支援者たち。前項障害者ネットワークでは、この障壁を打ち破る手立てを模索していた。

映画「星に語りて～ Starry Sky ～」

1) 2011年3月11日 東日本大震災、障がいのある人と支援者の物語

2011年3月11日午後2時46分18秒、宮城県の大鹿半島東沖で発生したマグニチュード9.0のわが国観測史上最大の地震。東日本大震災による傷跡は、未だに人々の心に深く刻まれています。しかし、1万8千人を超える死者の中で、障害のある人の死亡率が全住民の2倍だという事実を知る人は少ないのではないのでしょうか。この映画は、当時を知る証言者たちへの取材に基づき、その知られざる実情を山本おさむ氏の脚本と新進気鋭の松本勲監督によって描き出す群像劇です。実力俳優陣に加え、障害当事者を出演者として起用し、人間味あふれるドラマが繰り広げられます。

【予告編】「星に語りて～ Starry Sky ～」



2) 監督メッセージ／まつもと けんく松本 勲

「その真実を知っていただきたいのです。」

私が強く願うことは、この映画を障害福祉へ関心の無い人たちにこそ、ぜひ観てもらいたいという思いです。

私はこの映画に携わるまでは、恥ずかしながら、自分もその一人でした。もちろん、障害のある人を軽視していたつもりはありませんが、被災した障害のある人たちが、こんな状況下に置かれていたなど、知る由もありませんでした。

それはきっと、知らず知らずの内に障害のある人たちの存在を、忘れていたのだと思います。普段、障害のある人と接点が無い人たちは、きっと私と同じでしょう。ですから、そんな人たちがこの映画を観て実情を知ってくれば、きっと障害のある人たちの存在を意識し、関心を持ってくれるはずです。

人は、いつ障害を持つかわかりません。それは病気や事故によるものかもしれませんが、健康である人も、歳を取ると共に何かしらの障害がある人になり得るのですが、それに気づいていない人たちが大勢いるのです。

この映画は、過去の東日本大震災を描きながら、すべての人にいづれ訪れる、未来の有り様を描いています。

私は、この「星に語りて～ Starry Sky ～」を、一人でも多くの人に観てもらい、その真実を知っていただきたいのです。